

## 事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

### 1 事業者等の概要

氏名又は名称	白馬観光開発株式会社					
代表者名	氏名	和田 寛	役職名	代表取締役		
主たる事務所の所在地	長野県北安曇郡白馬村大字北城6329-1					
主たる事業の分類	大分類	R サービス業（他に分類されないもの）				
	中分類	95 その他のサービス業				
主たる事業の概要	スキー場の運営					
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	k1	2529	2453	2563	2433	2327
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO <sub>2</sub>	5594	5426	5628	5306	5047
その他ガス排出量合計	t-CO <sub>2</sub>	0		0	0	0
自動車の台数	台	16		16	16	17
自動車からの排気ガス合計	t-CO <sub>2</sub>	63		60	57	57

### 2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	平成 28 年度
------	----------

計画期間	平成 29 年度～ 平成 31 年度
------	--------------------

報告対象年度	平成 31 年度
--------	----------

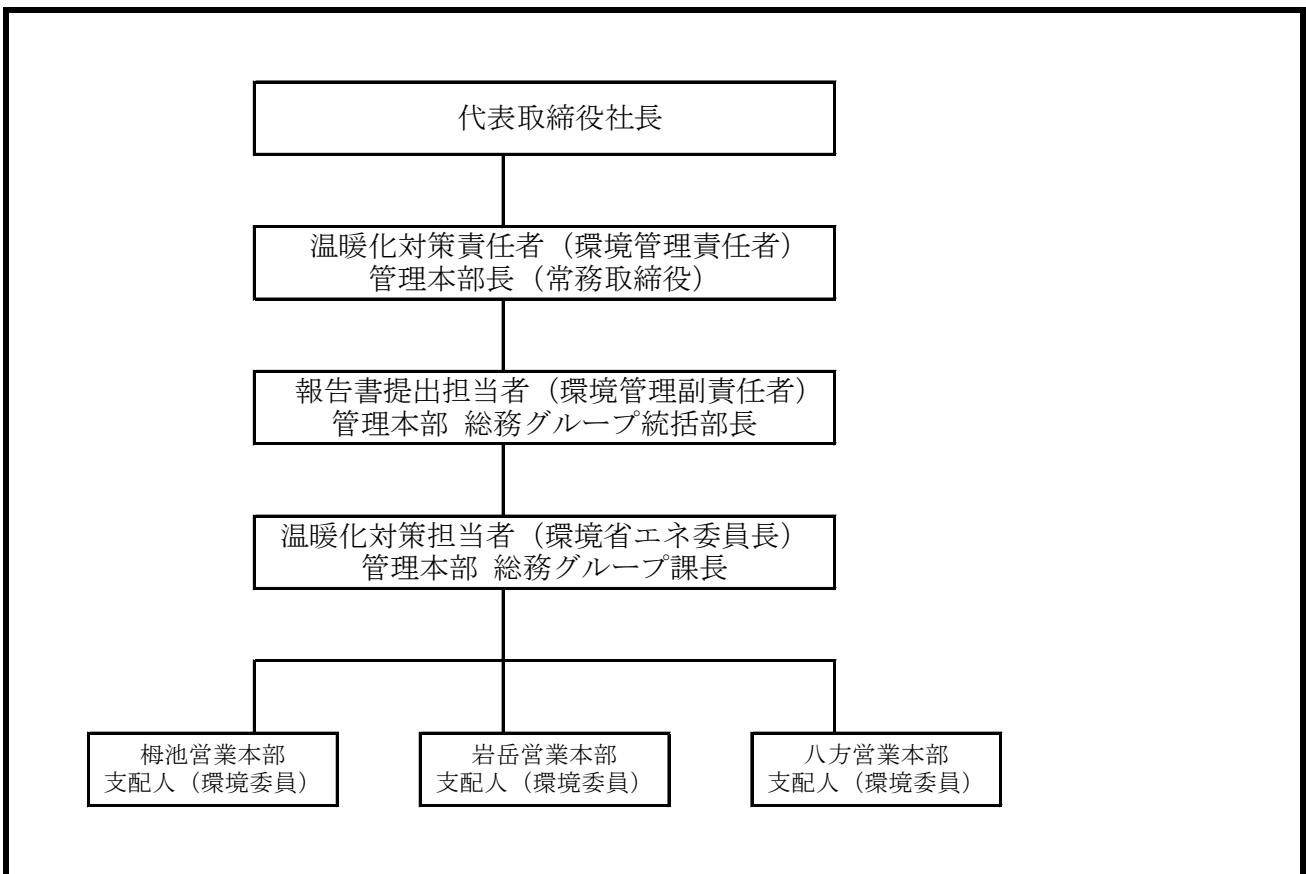
### 3 計画書（報告書）の公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	閲覧場所 本社管理本部 対応窓口 管理本部総務グループ 閲覧時間 9:00～17:00 連絡先 (TEL) 0261-85-7898
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

#### 4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

環境省エネ委員会において、環境目標を定め進捗管理を行っている。  
経済的、技術的に可能なかぎり原単位を年率1%以上低減させることを目標にして、その実現に努めている。  
従業員の省エネ意識の向上を図り、こまめな消灯やクールビス・ウォームビズの強化を図るとともにエコドライブの実施強化等、日々の積み重ねの努力をしている。  
機器の更新時には高効率な設備への更新を計画に基づいて実施する。

#### 5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



#### 5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

環境省エネ委員会  
四半期毎に開催（検証結果によっては随時開催する）

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	5,594	t-CO <sub>2</sub>	ゲレンデ面積	258	単位	ha	
28年度	調整後排出量	5,567	t-CO <sub>2</sub>	基準原単位	21.68	t-CO <sub>2</sub> /	ha	
目標年度	目標排出量	5,426	t-CO <sub>2</sub>	目標原単位	21.03	t-CO <sub>2</sub> /	ha	寄与度の合計から求めた目標削減率※
31年度	目標削減率	3.00	%	目標削減率	2.99	%		
目標設定に関する説明	<p>毎年1%以上の削減とし、3年間で3%以上の削減目標を設定した。以前から設置している環境省エネ委員会のもとで、より一層の削減を目指す。</p> <p>(記載ミスがあり、基準年の数値がH27年度数値だったため、H28年度数値に変更した)</p> <p>修正前 基準排出量:5210 調整後排出量:5283 目標排出量:5053 基準原単位:20.19 目標原単位:19.58 修正後 基準排出量:5594 調整後排出量:5567 目標排出量:5426 基準原単位:21.68 目標原単位:21.03</p>							※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	5,628	t-CO <sub>2</sub>	ゲレンデ面積	258	単位	ha	
	調整後排出量	5,592	t-CO <sub>2</sub>	原単位	21.81	t-CO <sub>2</sub> /	ha	寄与度の合計から求めた実績削減率※
29年度	削減率	(0.61)	%	削減率	(0.60)	%		
排出量等の増減理由	<p>営業施策としてゴンドラリフトやレストランの早朝営業や夜間営業を実施した。また、冬季シーズンでのスキーコースの積雪不足を補うために、人工降雪作業やコース整地作業等を重点的に実施したため排出量が増加した。</p> <p>(記載ミスがあり、基準年の数値がH27年度数値だったため、H28年度数値に変更した)</p> <p>修正前 基準排出量:5210 調整後排出量:5283 目標排出量:5053 基準原単位:20.19 目標原単位:19.58 修正後 基準排出量:5594 調整後排出量:5567 目標排出量:5426 基準原単位:21.68 目標原単位:21.03</p>							
第二年度	排出量	5,306	t-CO <sub>2</sub>	ゲレンデ面積	258	単位	ha	
	調整後排出量	5,278	t-CO <sub>2</sub>	原単位	20.57	t-CO <sub>2</sub> /	ha	寄与度の合計から求めた実績削減率※
30年度	削減率	5.14	%	削減率	5.11	%		
排出量等の増減理由	<p>目標達成のために、機器の更新やエネルギー使用量等の管理の徹底を実施した。その結果、数値及び削減率が目標値を上回ったが、今年度も暖冬の影響によりスキー場のシーズンインが大幅に遅れ営業日数が減少したこと、降雪量が少なく作業車関係の稼働時間が大幅に減少したことが大きく削減に寄与している。</p>							
第三年度	排出量	5,047	t-CO <sub>2</sub>	ゲレンデ面積	258.00	単位	ha	
	調整後排出量	5,012	t-CO <sub>2</sub>	原単位	19.56	t-CO <sub>2</sub> /	ha	寄与度の合計から求めた実績削減率※
31年度	削減率	9.77	%	削減率	9.77	%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由	<p>機器の更新やスキー場内リフトの効率的な運行(週末のみの営業等)と食堂関係施設の営業時間の効率化及びスキー場ゲレンデ整備車両の運行管理の徹底を図った結果により大幅な削減になったが、暖冬によるスキー場の雪不足による営業日の大幅な遅れや新型コロナウィルスによるスキー場の休業が非常に大きく寄与している。</p>							

様式1号  
(総括票)

6の2エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	0	t-CO <sub>2</sub>			単位		
年度	調整後排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準原単位		t-CO <sub>2</sub> /		
目標年度	目標排出量	0	t-CO <sub>2</sub>	目標原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた目標削減率 <sup>※</sup>
年度	目標削減率		%	目標削減率		%		
目標設定に関する説明								※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	0	t-CO <sub>2</sub>			単位		
年度	調整後排出量		t-CO <sub>2</sub>	原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた実績削減率 <sup>※</sup>
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第二年度	排出量	0	t-CO <sub>2</sub>			単位		
年度	調整後排出量		t-CO <sub>2</sub>	原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた実績削減率 <sup>※</sup>
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第三年度	排出量	0	t-CO <sub>2</sub>			単位		
年度	調整後排出量		t-CO <sub>2</sub>	原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた実績削減率 <sup>※</sup>
年度	削減率		%	削減率		%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由								

様式1号  
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	63	t-CO <sub>2</sub>			
年度						
目標年度	目標排出量	0	t-CO <sub>2</sub>	削減率		%
年度						
目標設定に関する説明						
第一年度	排出量	60	t-CO <sub>2</sub>	削減率	4.76	%
年度						
排出量等の増減理由						
第二年度	排出量	57	t-CO <sub>2</sub>	削減率	9.52	%
年度						
排出量等の増減理由						
第三年度	排出量	57	t-CO <sub>2</sub>	削減率	9.52	%
年度						
目標の達成状況及び排出量の増減理由						

7 重点対策の実施状況

段階	連番	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I、II	1	燃料使用量等の定期的な把握						
	2	エコドライブの励行						
III、IV	—	次世代自動車の導入						

様式1号  
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	対策内容	計画		状況	
			実施 予定年 度	削減見込量 (t-CO <sub>2</sub> )	実施年度	推計削減量 (t-CO <sub>2</sub> )
1	エネ起	110204 コントラフトの主減速機オーバーホール2基	29		29	
2	エネ起	110201 コントラフトの駆動Vベルトの交換2ヶ所	29		29	
3	エネ起	その他 コントラフト プランマベアリング交換4ヶ所	29		29	
4	エネ起	その他 高性能人工降雪機用ガン更新8台	29		29	
5	エネ起	その他 スキー場内作業車(圧雪車)の更新1台	29		29	
6	エネ起	その他 新型除雪機の更新 2台	29		29	
7	自動車	新型マイクロバスへの更新 2台	29		29	
8	自動車	新型自家用自動車の更新 2台	29		29	
9	エネ起	110204 岩岳コントラフト主減速機オーバーホール 1基	30		30	
10	自動車	新型マイクロバスへの更新 2台	30		30	

9 自然エネルギー源利用設備等の導入状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度

10 クレジット等に関する取組状況

クレジットの種類	単位	基準年度	計画期間	第一年度	第二年度	第三年度
グリーンエネルギー証書(電気)	tCO <sub>2</sub>					
グリーンエネルギー証書(熱)	tCO <sub>2</sub>					
J-クレジット制度により創出されたクレジット	tCO <sub>2</sub>					
県が認証したクレジット	tCO <sub>2</sub>					
電気の利用に伴うもの	tCO <sub>2</sub>	27		36	28	35
低炭素電力の利用	tCO <sub>2</sub>					

様式1号  
(総括票)

1.1 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO<sub>2</sub>)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上								
1,500k1以上 3,000k1未満								
1,500k1未満	4	5,594	4	5,628	4	5,306	4	5,047
合計	4	5,594	4	5,628	4	5,306	4	5,047

1.2 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO<sub>2</sub>)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	0	0	0	0
CH <sub>4</sub>	0	0	0	0
N <sub>2</sub> O	0	0	0	0
HFC	0	0	0	0
PFC	0	0	0	0
SF <sub>6</sub>	0	0	0	0
NF <sub>3</sub>	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

1.3 次世代車使用台数、導入計画及び実績 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車				
電気自動車				
燃料電池自動車				
クリーンディーゼル自動車				
その他 (ハイブリッド等)				
合計	0	0	0	0
自動車総数	16	16	16	17
次世代車導入割合				

様式1号  
(総括票)

1.4 中小企業支援状況

区分	内容
中小企業への省エネ診断	特になし
その他	特になし

1.5 交通対策状況

区分	実施内容
ノーマイカー通勤	特になし（山間へき地のため、公共交通機関が少ない）
公共交通機関の利用促進	特になし
来客者の交通対策	特になし
物流の合理化	特になし

1.6 環境マネジメントシステム導入状況

番号	名称	導入年
1	なし	
2		
3		

1.7 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度実績	ゴミの分別の細分化によるリサイクルの強化、生ごみのドライ化の実施、車両の適正な空気圧及び始業点検の強化、エコドライブの実施強化、照明機器の清掃及び採光部分の清掃、排熱装置のフィルター清掃など日々実施
第一年度実績	クールビズ、ウォームビズを強化した。事務所等の照明をこまめに管理し節電に努めた。車両の月間燃料使用量を把握し燃料使用量の削減を励行した。各職場毎に節約目標を立て節約に努力した。日々の積み重ねの重要性の認識を共有した。
第二年度実績	照明機器の更新、ゲレンデ作業車等の更新、化石燃料使用での管理の徹底、ウォームビズ、クールビズの強化等、こまめな管理を実施した。また廃棄物の分別リサイクルも強化した。
第三年度実績	機器の更新や作業車両等の効率的な運用とウォームビズやクールビズの実施強化と日々のこまめな管理の徹底に努めた。週末営業等のリフトや飲食施設の効率的な運用を実施した。エコドライブの強化とゴミの分別や排出量の削減を図った。

1.8 自由記載欄

区分	内容	削減量(tCO <sub>2</sub> )
基準年度以前の取組み		
その他	2019年度にてLED蛍光管に更新170本	5